

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名	グループホームしおり
(ユニット名)	風
記入者(管理者)	
氏名	伊藤浩明
自己評価作成日	H29年 9月 11日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 災害対策・避難訓練について、年3回実施を継続して行いながら、より実践的な想定を考え実践的な方法で取り組みました。消防署からの評価でも、実践的であると評価をいただきました。 家族・関係者の方々には、毎月おたよりを送付し、行事等の呼びかけを継続して行っています。家族の方の声で『職員の顔と名前がわからない』といった意見があり、玄関に職員紹介を設置しました。玄関でそれをゆっくり見ているご家族やご利用者がおり、職員とのコミュニケーションの一つになってほしいと思っています。 ベッド柵の設置については、現在改善できていないのが現状ですが、モニタリングを通して現状と必要性の確認をしています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 敷地が広く緑豊かな事業所は、高台にあり城などが一望できる。同法人の隣接の事業所とは自由に交流でき、近隣の保育園や小学校との交流も多く、利用者は明るく楽しみながら生き生きとした生活を送っている。利用者一人ひとりの生活スタイルや要望を取り入れながら、共に生きるケアを行っている。事業所内は明るい和やかな雰囲気に満ち溢れ、代表者の的確なアドバイスを得ながら、心根優しい管理者が職員の軸になり、利用者の意向に沿った支援に努めている。</p>
---------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	△	日頃のコミュニケーションや会話等を通して、希望を聞いたり、悩みや要望を聞くようにしている。得た情報は記録に残し、職員間で共有している。	◎	/	○	日々の会話等を通じ利用者の希望などを聞くようにしている。会話が困難な利用者も思いや意向などを把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴やこれまでの歴史にも目を向け、本人本位で検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会等にいられた際にコミュニケーションをとり、本人の思い等について話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	△	アセスメントシートを使用している。日々の気づき等を記録に残している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	留意しているが、もっと本人の思いを汲み取っていかないといけないと感じている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	家族や関係者から情報収集を行い把握している。本人とのコミュニケーションや、家族・関係者の面会時等を通して聞き取りを行っている。	/	/	○	家族や関係者から生活歴などを聞くほか、利用者からは会話を通し、こだわりや大切にしてきた情報などを得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、日々の記録等を通して、状態を記録に残しながら情報共有をしている。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、日々の記録等を通して、状態を記録に残しながら情報共有をしている。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、日々の記録等を通して、状態を記録に残しながら情報共有をしている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	日々の変化や違いについて、記録や申し送りなどを通して、1日の生活について把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	△	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討する。本人が、必要かどうか何を求めているのかわからない時がある。	/	/	○	本人の意向や思いを汲んで考えているが、利用者が本当に求めているものになっているかどうかを、さらに利用者の視点で検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討する。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	△	ユニット会、モニタリング等を通してその都度出てくる課題等について明らかにするよう努めているが、課題が何なのか答えが出にくい時がある。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	本人の思いや意向について、よりアセスメントしないといけないと感じている。	/	/	/	家族との話し合いは随時行い、利用者の必要な情報は得ることができており、意見などを介護計画に活かしている。今後は、ケアがさらに充実するようアセスメントをより一層充実させていきたいと考えている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	△	家族や関係者等との話し合いは随時できているが、本人の思いや意向について、よりアセスメントしないといけないと感じている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	重度になられても、出来る限り本人の馴染みや暮らし方を配慮している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族の面会や通院等を協力して頂いているが、地域の協力体制は実例がない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	計画書を見やすい所にいつも置いており、計画書の内容を毎日チェックしている。	/	/	◎	介護計画は内容がいつも把握できるよう見やすいところに置かれている。月1回のユニット会やモニタリングにおいて状況確認を行っている。面会や外出、レクリエーションの様子など結果のみ記録するのではなく、表情やしぐさなど利用者の様子も記録に残している。利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫、アイデア等に物足りなさを感じるので、今後の取組みに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	記録に実施状況や内容を記載している。ユニット会やモニタリングで支援について振り返り確認している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	利用者一人一人、日々の様子などを記録に残している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	ユニット会やモニタリング、日々の記録に残している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月モニタリングを行いながら、検討している。	/	/	◎	6か月に一度の見直しを行い、3か月ごとにモニタリングを行っている。変化が見られない時でも月1回は利用者の状況は確認している。本人が希望していること、どうありたいかなどを把握し、現状に活かせる取組みがあまり見られない傾向があるので今後に期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	毎月モニタリングを行いながら、検討している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	毎月モニタリングを行いながら、状態を把握しながら、現状に即せるよう努めている。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	その都度ユニット職員で集まり、緊急的に開催することも多い。	/	/	○	緊急案件の場合は早急に対応し、随時解決している。文面では一言一句すべて記録することは困難ではあるが、重点事項は記録に留め閲覧するほか、現場リーダーが口頭で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	一人一人が言いやすいよう配慮しており、意見交換ができています。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	予め日程を決め周知している。緊急の場合も勤務や休日の都合など調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議内容は記録に残し閲覧したり、リーダーから口頭で伝達等をしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	日誌、申し送り等を通して、情報伝達と共有に努めている。	/	/	◎	早朝と夕方とに申し送りをを行い、利用者の体調や家族の要望などを伝え共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	日誌、申し送り等を通して、情報伝達と共有に努めている。確認印を押してもらっている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	コミュニケーションをとりながら、思いを把握するように努めているが、それを叶えられない日もある。毎日が同じパターンになってしまっている時がある。	/	/	/	利用者が様々な場面において自己決定できるよう職員全員で支援に努めている。自己決定の表現が困難な利用者もいるが、職員は利用者の喜びの表情を引き出すことを意識し声かけをするよう心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	△	おやつや飲み物など希望の物を聞いたり、選択していただく機会を作っている。入浴の時間など希望の時間やタイミングを本人と相談しながら行っている。自己決定が難しい利用者に対しての働き掛けが難しい。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	コミュニケーションや会話から思いや希望を聞けるよう働きかけている。コミュニケーションをとりながら、本人と可能な限り相談しながら支援を行っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	△	一人一人のペースや習慣を大切に考え支援しているが、日々の生活や共同生活の中で、職員側の都合になってしまっている時がある。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者に接するときは明るく笑顔で気持ちの良い態度を心がけている。コミュニケーションや声かけをすることを意識している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日頃の関わりの中から、表情や言動等をよく観察しながら、状態を把握している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や学習会に参加して学んでいる。日頃からプライバシーに配慮し、声かけや態度等気を付けている。	◎	◎	○	接遇面の研修に自発的に参加してもらい、スキル向上に努めている。「トイレ」と大きな声で言わないようにしたり、難聴の人にはジェスチャーで表現したり、耳打ちするなど配慮している。居室の戸が開いている折も、ノックをし声かけし、目を合わせて入室している。トイレのある居室ではより注意し入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	利用者に対して、さりげない対応や言葉かけを意識している。生活の中で、声かけをしていると注目が集まりあからさまになってしまうときがある。職員間のやりとりでつい声が大きくなってしまふことがある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	必要な介助以外は、本人の側に常にいるのではなく、少し距離を取り様子を伺ったり声かけをしている。他者とのプライバシーにも配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室する前はノックをしたり、外から声をかけてから入室している。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報保護について理解している。職場内や職員間でのやりとり等、個人情報に関することを第三者に漏らさないよう配慮している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々の生活の中で、出来る事や得意なことをしてもらい、職員が教わることも多い。そういった関係性の中で感謝を伝えたり、職員も利用者によって支えられている場面がある。	/	/	/	利用者同士の相性等を考慮し席配置を決めるなど配慮している。利用者同士の言葉の行き違い等によりトラブルにならないよう、職員が常に事業所内での様子を見守るなど、利用者同士の関係性を尊重した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者の笑顔や嬉しそうなお姿を見た時、支え合う事の大切さや重要性を感じ理解している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係を大切に支援している。利用者の中には、関係性がうまくいかない方もおり、職員が間に入って対応したり様子を良く見守りながら支援しているが、うまくいかないこともある。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	その都度生まれてくるトラブルやそれに繋がりそうな場合は、職員が間に入り対応したり、環境設定などを考え、より良い方法を考えている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人や家族、関係者の方から話を聞くこと、それを情報共有することに努めている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	生活歴やこれまでの経過など情報収集し共有している。家族や関係者の訪問時などのやりとりで新たな情報を知ることある。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	本人の行きつけの美容院や病院等、これまでの繋がりを継続している方もいる。職員と外出し、自宅に寄ることもある。重度になられた利用者が、出かけていくことが難しい。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時など、居室やホールでゆっくり過ごしていただけるように対応している。本人の近況など随時報告している。コミュニケーションを図るよう心がけている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ホームの中で過ごすことが多くなっていることもある。一人一人の希望にそって取り組むことが難しいことがある。季節の良い時や、希望がある時は、ユニットで夕食や外出に出かけたり、散歩に出たりすることもある。	◎	○	△	重度の利用者も含め事業所内で過ごすことが多くなっているため、利用者一人ひとりの要望等に沿い、散歩等も含め外出の機会が増えることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ホームの職員で外出支援している。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	×	戸外まで出ることができないことが多いが、リビングや居室外に出られるよう体調を見ながら支援している。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族に協力してもらい、自宅やお店に外出や外泊をしていただけることがある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	実践者研修等で実習したことを日々のケアにつなげている。その取り組みの中で、行動心理症状や、それを引き起こす要因などをカンファレンスの中で話し合いながら支援を行っている。	/	/	/	食事の支度や下膳など、利用者にはできることを自分で行うよう場面を作り、時には職員と一緒に手伝うなど支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	福祉用具の使用、毎日リハビリ体操を実施、出来る限りトイレでの排泄、歯科往診等を通して身体機能の維持に努めている。日常生活の中で見守りと声かけを行いながら、利用者の動きを抑制しないよう心がけている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	日常生活の中で見守りと声かけを行いながら、できるだけ本人にしていただけるよう心がけている。否定や指摘するのではなく、本人の思うようにできるだけしてあげている。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人とのコミュニケーションを通して、希望や楽しみ等把握している。日々の生活の様子から、本人の習慣や出番等も把握し、利用者一人一人の生活を見守っている。	/	/	/	利用者との会話を通して楽しみなどを把握し、利用者一人ひとりに合った役割等を考え、それぞれみんなに出番があるよう職員全員で支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	利用者一人一人に合わせて、出来る事や習慣となっていること等を実施してもらっているが、できている利用者としていない利用者がある。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事等の参加には積極的に出て行っているが、できている利用者としていない利用者がある。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	身だしなみ、化粧や衣服等、本人の馴染みの物を持って来てもらい、使ってもらっている。散髪や毛染めなどホームでできることを本人と相談しながら行っている。	/	/	/	髪型など整容の乱れや食べこぼしなどは、回りにわからないようさりげなく支援している。重度の利用者は常に横になっている状態なので、本人らしさが保てるような服装等にすることの配慮が望まれる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	利用者個々に応じて、美容院に出かけたり、ホームでの毛染め、必要品の買い物等、支援している。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者本人または家族にも相談しながら支援している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	行事や外出等、その場面に依って服装や身に付ける物等、楽しめるよう支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自尊心を傷つけないよう配慮しながら支援している。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ご家族にも協力してもらいながら、馴染みや希望のある場合は、外部等の店を利用できるよう対応している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	ボランティア散髪に来て頂いており、ホームの中で散髪をしていただいている。重度になっても場面や状況に合わせて、服装等も配慮している。	/	/	△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	利用者個々に応じて、食事がおいしく食べれるように支援している。	/	/	/	施設長が栄養士であり、適切なアドバイスに利用者の嗜好を重ね献立を作成している。毎週魚屋が来訪し利用者と一緒に選んだり、調理方法なども一緒に考えるなど、わきあいあいとした関係が築けている。祭りにはちらし寿司や郷土料理など行事食にふさわしいメニューを取り入れている。入居時に使い慣れた食器を持参してもらい、安心して食事ができるよう配慮している。調理中は献立の話をするなど、食事が楽しみに思えるよう配慮している。職員は利用者の傍に座り観察しながら見守り一緒に食事をしており、楽しく明るい雰囲気ですべての食事ができるように努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	△	利用者と一緒に買物に出かけたり、調理や片づけ等できることは一緒に行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者個々に応じて、ホームの生活の中で役割や力を発揮する場面ができています。自信や達成感につながるよう、コミュニケーションや声かけを行っている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	情報収集し、利用者個々の状況を把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	アレルギーのある利用者にはメニューを変更している。郷土料理や旬の野菜果物、地元の魚などを取り入れている。行事や季節に応じてメニューを工夫している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いれどりや器の工夫等)	◎	利用者個々に応じて、食べやすい工夫や体調面を考慮した食事の提供をしている。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者個々に応じて、使いやすい馴染みのある物を持って来てもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員も座る席を変えながら、利用者と一緒に食事をしている。見守りや声かけ、コミュニケーションをとりながら支援している。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	調理中に献立の話や、におい、昔の話などをしながら雰囲気づくりに取り組んでいる。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	利用者個々に応じて、声かけや見守りをしながら、脱水予防や食事量の確保等に努めている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	水分の種類や食事形態、食べやすいもの等利用者個々に応じて工夫している。	/	/	/	
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士の資格を持つ職員が献立を立てている。時には献立を変更し食べやすいよう配慮している。	/	/	○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	キッチンの掃除や整理整頓を行っている。食材の賞味期限や状態をきちんと管理している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	△	研修やミーティングで学び話し合っている。口腔ケアに使用する道具も利用者個々に合わせている。	/	/	/	訪問歯科の往診等により利用者の口腔ケアを行っており、口腔状態は常に清潔を保つように努めている。利用者は職員が見守る中、毎食後歯磨きを行っており、職員は磨き残しがないかなど、利用者の口腔内の状態は常にチェックしている。夜間に入れ歯は洗浄液に浸すなど、衛生管理も行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	△	訪問歯科の往診がある利用者に関しては、口腔内の状態についてよく把握している。その他でも口腔のことで、不具合がある等早期発見に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	△	訪問歯科の医師から指導していただいている。日常の支援に活かせる時と、支援につなげられないことがある。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者個々に応じて、管理や洗浄等を支援している。介入できないケースもある。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者個々に応じて、本人にできる範囲で行ってもらったり、訪問歯科を利用している。食事の様子や口腔ケア時等、異常や変化がないか見守っている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	異常等の早期発見に努め、家族にも相談しながら適切に受診につなげている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり、ミーティング時の意見交換で理解に努めている。おむつの使用に関しては、必要最低限の使用を心がけている。	/	/	/	食前にはトイレ誘導するよう心がけるほか、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援に努めている。日中と夜間でおむつの種類を変えたり夜間のみポータブルトイレにするなど、利用者一人ひとりの状態に合わせたケアに取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表、24時間シートを活用し利用者個々の把握に努めているが、把握できない利用者がある。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	ミーティング等で話し合いをしながら、利用者個々に応じて支援している。日中と夜間でおむつの使用種類を変更したり、必要最低限で使用し、トイレで用を足すことを基本としている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄状況を把握しながら、食事、水分、運動等排泄に影響している点はないか考えながら支援を行っている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者個々の排泄パターンを把握し、タイミングを見て声かけや誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	×	おむつ等を使用する頻度や時間帯、おむつの種類など、出来る限り、使い心地の良い物を選択したり、利用者本位で考えてはいるが、本人と家族等との話し合いはあまり行えていない。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	利用者個々に応じて使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	食事のメニューの工夫、運動やトイレ時の腹部マッサージなどを行っているが、薬を併用している利用者が多い。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	毎日入浴ができるよう準備している。利用者個々に応じて、生活の習慣やリズム、希望等を考慮して支援しているが、職員側の都合になってしまうこともある。	◎	/	△	希望があれば毎日入浴できる。入浴の時間は利用者の体調や気分で決めるなど、利用者に合わせて支援に努めている。湯温は利用者の要望に応じられるよう配慮しているが、入浴を職員の業務の都合に合わせて待つ場合もあるため、今後は利用者の要望を優先するようにして欲しい。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	一人一人が入浴できる環境であり、支援の必要の有無や状況に応じて介入しすぎないよう支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができることは、していただいている。サポートが必要なところはさりげなく声かけをしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	△	体調やその時の気分等も入浴に気分が向かない要因になっていることもある。本人と相談しながら入浴できるよう支援している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前にバイタルチェック、全身状態のチェックをしている。その時の体調や状態を見て入浴を決めている。入浴後は水分補給をしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜間帯の記録や申し送り、日々のケアから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	昼間は調理等できることを手伝ってもらったり、利用者一人ひとり活動量を調整するなど支援している。薬の服用は常に医師と相談するなど指示を仰ぎ、内容や量を検討しているが、極力薬に頼らず日中活動するなど工夫した支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、日中の活動を維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動や過ごし方と並行して、医師との連携を取りながら、必要に応じて内服薬なども検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	いつでも居室で休むことができる。その日の体調や前夜の睡眠具合を考慮し、臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	携帯電話を自由に使っている方もおられる。その他でも要望があれば電話や手紙の代筆等できるように備えている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	要望があれば電話や手紙の代筆等できるように備えている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	要望があれば取次等している。携帯電話を自由に使っている方もおられる。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	郵便物などは本人に渡し、代読したり一緒に確認したりしている。返事を書く場合必要に応じて、代筆など支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話を掛ける際は、まず職員が経緯や内容の説明をしてから取り次ぐ場合や、事前に電話を掛ける事の協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	使用する機会が少ないが、お金を持っていることの安心感等利用者個々に応じて理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	要望があれば一緒に出かけ買物をすることもあるが、本人の持っているお金を使う機会が少ない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	要望があれば一緒に出かけ買物をすることもある。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を持つことで安心感につながる利用者もおられるが、日常的にそのお金を使う場面が少ない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入所時に話し合い決めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所時に話し合い決めている。現金出納帳に記載し、毎月使用した分のコピーを送り、確認して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	本人や家族等と相談しながらそのニーズに対応できるよう柔軟に対応できるよう備えている。	◎	/	○	利用者や家族の要望等を聞き、そのニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	掃除や環境整備をし、ベンチやテーブル、椅子などを置き、明るい雰囲気作りを心がけている。	◎	◎	◎	玄関を一步入ると広いホールがあり、面会者とゆっくり会話できる。職員紹介のパネルがあり、家族からはわかりやすいと評判で喜ばれている。面会者が気持ちよく感じるぐらい清掃が行き届くなど、環境整備にも力を入れている。
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	玄関やホールでは季節の花を飾ったり、季節や行事の装飾品を置いたりしている。くつろげるスペースを確保したり家庭的な環境を整えている。	◎	◎	○	居間には習字の作品を飾ったり、コスモスの花を壁面に飾り季節を表現するなど工夫している。トイレは毎日欠かさず隅々まで丁寧に清掃している。リビングからはふるさとの島や城が一望できるなど、眺めが最高で利用者はいつも癒されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除、環境整備、空調、臭い等日々気を付けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	掲示物等で季節感を感じられるようにしている。地域のお祭りなど慣れ親しんだ音楽をかけたりレクリエーションに取り入れている。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	利用者同士の馴染みの場づくりや、独りで過ごせる環境も整っている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	カーテン、扉で内部が直接見えないようにしている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家具等、使い慣れた物を持って来て頂いている。写真の掲示や家具等の配置を本人と家族とも相談しながら決めている。	◎	/	○	馴染みの家具など使い慣れたものを持ち込み、家族と相談し好きな場所に配置するなど配慮されている。
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレや浴室など掲示の工夫をし、わかりやすく見えるよう配慮している。	/	/	◎	転倒を防ぐために足元に物品を置かないようにしたり、手すりを設け、伝いながら歩けるよう配慮している。トイレや浴室の場所がわかりやすいよう表示するなど工夫している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々に応じて、不安や混乱、失敗等につながる場合の環境調整や支援をしている。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、広告、花など生活空間の中にさりげなく配置している。	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関チャイムを設置している。日中は鍵をしていない。自由に出入りできる環境を整えている。	◎	◎	◎	家族が階段の柵を希望されることもあるが、鍵をかけることにより利用者の自由が奪われることなどの弊害を理解してもらっており、日中は玄関の鍵をかけず自由に出入りできるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族と意見交換しながら、ホームでの生活について伝えている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関チャイムを設置している。利用者の自由な行動を妨げず、見守りや声かけをしながら支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報収集した内容を確認している。申し送りや日誌の活用、看護記録や通院状況なども把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	24時間シートに記録している。体調変化に気を付けその都度記録に残している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	主治医や事業所の看護士などへの相談をよくしながら、利用者個々に応じて支援している。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	本人や家族に相談しながら医療機関や医師に受診できる様支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	本人や家族の意向や希望をよく聞き、納得できる医療機関との連携を図っている。何かあればその都度家族に相談し、決定しながら支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の同行や付き添い、結果報告などその都度行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は情報提供を行い、本人の状態等を伝えている。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者、看護職員が主に病院関係者と連絡を取り合いながら、随時家族とも連携して行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	定期的な受診を通して、関係づくりをしている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	日頃から事業所の看護職によく相談できている。かかりつけ医への相談も随時行っている。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	事業所の看護職や、かかりつけ医には気軽に連絡・相談ができる。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎日バイタルチェックを行い、変化や異常がないか観察している。何かあればすぐに相談できるように努めている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋や薬の説明、受診記録等から確認している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬準備を利用者個々に応じて行っている。服薬する際は飲み込みの確認が必要な場合もあり、その都度支援している。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態や様子を観察しながら変化や異常があれば、看護職やかかりつけ医に報告している。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化等、服薬に際しての状態などを家族、医師、看護職に報告しながら連携をとっている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	随時家族と相談しながら、その都度生まれてくる疑問や不安などに対して、話し合いを通して確認している。終末期や延命治療など方針を聞きながら職員間で教諭している。	/	/	/	看取りについて、家族の不安に応じられるよう相談しやすい体制を整えている。今後どのような経過をたどるのか医師から家族に丁寧に説明している。看取り後の職員の心のケアにも努めており、職員の心が折れることのないよう配慮している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	カンファレンスやかかりつけ医の往診時等、家族や本人と共に今後について話し合い方針を決めている。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	カンファレンスを実施し、職員にできることの確認や、連絡手段、対応方法について共有している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度話し合いを行いながら、理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の段階において、変化や何かあった場合は家族やかかりつけ医とこまめに連絡を取っている。その際、今後の考えられる経過やどう対応したらよいか等相談している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の面会の際には、声かけやコミュニケーションを通して気持ちを聞けるよう心がけている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	研修会などに参加しながら学んでいる。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染対策のマニュアルがあるが、日ごろからの訓練が不足している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関からの情報を取り入れている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ、新聞、保健所、医療機関から情報を取り入れ、流向時等には注意喚起をしながら予防に努めている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	日頃から手洗いうがいの意識づけができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話など、本人の様子や状態を報告して話をしている。家族とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	敬老会や感謝祭、年4回開催の「笑みちゃんカフェ」などの際は、家族に協力してもらっており事業所は助かっている。毎月1回請求書と一緒に利用者の体調や様子を知らせるための手紙や、写真入りの活動報告を掲載した「しおり便り」を送付している。時には電話で利用者の近況報告をすることもあある。家族には面会時に声をかけるなど、コミュニケーションをとるよう心がけているが、事業所の運営上のことや職員の異動等について、家族に十分に報告できていないので、今後は運営推進会議等を利用し家族に報告できることを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時は居室やホールでゆっくり過ごしていただけるよう声かけしている。お茶やおやつ等をお出しし、利用者本人と共にくつろいでいただけるように対応している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	日頃の外出や通院、行事等を協力いただき、機会を作っている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族に向けてお手紙を送付し、本人の様子をお伝えしたり、しおり便りを同封し、ホームでの活動状況などをお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	会話やコミュニケーションを通して、家族の面会時等に話をしている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	利用者本人の状況や様子を随時伝えつつ、家族が不安や心配すぎないよう、フォローしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	運営推進会議やしおり便り等で報告している。職員の異動退職については不十分である。	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議、行事等への参加のお誘いをしている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	○	体調変化や、それが予測される状態の時などは随時連絡を取っている。できるだけ事前に相談しながら伝えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会や来訪時に、声かけを行いコミュニケーションをとるよう心がけている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居契約の際、理解、納得して頂きながら進めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に際しては、利用者家族と話し合い、ケースごとに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の変更がある場合は、予め家族への手紙や電話連絡、運営推進会議等で報告、説明し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	近隣地域の人に対して、しおり便りを配布したり、行事の際のお誘いに向いたりしている。	/	○	/	地域の行事予定は運営推進会等で自治会長が直接伝えてくれており、行事には利用者が積極的に参加している。また自治会の清掃や小学校の運動会等に利用者と職員が出席するなど、地域とのかかわりは日々深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事がある時は、積極的に参加している。その中であいさつやコミュニケーションは大切にしている。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の見守りや、子供たちの介入等少しずつ増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄ったり遊びに来たりしている。	△	いつもではないが、子供や地域の方が立ち寄ることがある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	しおり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	散髪、カラオケ、サロン等地域の協力をいただき、ホーム内での行事等に参加していただいている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	地域行事に可能な限り出かけていき交流している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や保育園、商店などの協力もありホームに訪問して頂いている。しおり便りの配布や、地域行事に向いたり日常の中で行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族や地域の人等の参加はあるが、利用者が参加する機会がない。	◎	/	△	運営推進会議には家族や地域住民等は参加しているが、利用者が参加する機会がないので、今後は利用者が参加しやすいような内容にするなどの工夫に期待したい。評価内容等については、運営推進会議で報告・説明し家族の理解を得ている。議事録から要望や助言などが積極的に出ているのが分かるが、事業所の運営に活かせていないので、今後に期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議を通して、報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけでなく、参加者等に意見をいただけるよう働きかけている。その結果についても随時報告している。	/	○	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	より参加できる方が増えるように声掛けは行っている。事前に日程をお知らせしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	要望があればお答えできるように備えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	理念は職員が目につくところに掲示し確認している。年に一度ユニット理念を見直し、職員間で確認している。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念は、しおり便りに掲載し、玄関に掲示している。見学者等にもその際に伝えている。	◎	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修に参加できるよう周知や声かけを行っている。代表者は現場を見たり、面接を行い、職員とのコミュニケーションを図りながら把握している。	/	/	/	管理者は全職員に出勤時・終了時には話したいことが話せる機会を作っている。リフレッシュ休暇は誕生日にとっている。有給をつなげてとる人もいる。勤務を調整しながら実務者研修の受講者には、費用の負担もしている。勤務体制が負担にならないよう要望もよく聞いてもらえる働き易い職場である。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	ミーティングの際、話し合いの中で取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員個々に向けて取り組んでいる。シフトや業務内容に負担がないか管理者と話し合いが行われている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や交流会などへの参加を心がけている。研修参加について、管理者から職員に案内したり直接声をかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面接や日頃の業務の中でコミュニケーションをとりながら話を聞いてくれる。	○	○	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだり、職員間で話し合い取り組んでいる。利用者の生活の中で、ケアを振り返り適切なケアを検討している。	/	/	/	新人研修の中に盛り込み力を入れている。研修参加者はミーティングの時全職員に報告し記録にも残し共有している。虐待とはどういうことか、ミーティングで説明を受け話し合いも重ねている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティングや日頃から話し合う場で気づきを出し合い検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉や関わり態度が不適切であったり虐待に繋がっていないか意識している。怪我や状態に変化がある時は、職員間で報告し合っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子に気を付け、本人に声をかけたり話を聞いたりしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	研修やミーティングを通して、職員間で話し合いながら事例に合わせて検討している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	△	ミーティング等で職員間で話し合いながら検討している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束について、家族等と話し合いながら理解をして頂いている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加し、理解できるように努めている。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在ケースがない。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要である場合は、専門機関等の関係各所に繋げるよう備えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。連絡体制は整備しており、施設長、管理者、看護職からの指示を受けるようにしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護職からの指導等が主である。実践に向けては不安があるのが現状である。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	ヒヤリハットを活用し、再発防止に努め検討している。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者個々に応じて、リスクや環境調整等を考慮し取り組んでいる。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルがあるが周知徹底が不十分である。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情や不満につながるようなケースもあるので、何かあれば利用者家族へ随時報告、相談を行っている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情とまでは至らなくても、随時連絡、相談を取りながら取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	△	日頃からのコミュニケーションや会話を通して、利用者個々に話を聞いている。	/	/	○	利用者の願いや希望を日々の生活の中でくみ取り、職員間で共有している。ご家族からの意見は面会時や行事参加時によく聞き取っている。遠慮がちなご家族への今後の対応が課題である。管理者は大切な一つひとつの意見や提案に対し、緊急性のない内容はじっくり職員間で考え返している。苦情相談窓口も内外部に設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	面会等の際コミュニケーションを通して話し合っている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	介護相談員が定期的に訪問している。苦情相談についてホーム内に掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は、巡回など随時行いながら、職員と話をしている。必要に応じて個別に対応したり、ミーティング等全体で話し合っている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	ユニット会、ミーティングで意見交換を行っている。	/	/	○	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	自己評価は職員全員で取り組んでいる。				運営推進会議で外部評価・目標達成計画について報告している。モニターにまでは至っていない。今後、サービス評価が地域・ご家族とともにより深く一緒に取り組み評価していただけることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	ミーティング等で話し合う議題として取り上げ取り組んでいる。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	取組内容を職員間で話し合い確認している。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	家族、推進会議の参加者に書式を用いて報告し、計画書を確認してもらっている。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	計画書の成果の振り返りや確認が不十分である。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルはあるが周知徹底が不十分である。				原子力災害において伊方より30km以内の施設を受け入れる体制ができている。「かきの里」「丸の内はとぼっぼ」との連携はある。内容によっては受け入れの備えはある。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	年3回避難訓練を実施し、実践に基づいた訓練内容で実施している。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災委員会を設置し、定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年1回は消防署立ち合いの元訓練を実施している。地域住民や近隣事業所との連携は構築されていない。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の災害訓練には参加するようにしている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	しおりだよりの発行、行事(感謝祭、笑みちゃんカフェ)などを通して外部の方がホームに足を運んでもらえるような機会を作っている。				随時介護相談を受け入れている。事業所が相談できる場であることを今後回覧板・ポスターなどを利用し、広めていく方向である。丸穂保育園児による歌や踊りのミュージックケアが催され、利用者は喜びや生きがいを感じている。天神小学生の人権の授業の一環として、サルビアの苗を育て届けてくれる。公民館より物品を借りることもある。福祉施設を訪問しているカラオケボランティア(絆)やフラダンスが敬老会で披露される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	笑みちゃんカフェの開催の時に相談を受けたりするケースがある。		×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	地域サロンの開催、笑みちゃんカフェ等を実施し活用している。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	ボランティア等の受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域行事には積極的に参加している。他事業所の行事への参加も行っている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町3丁目8-15
訪問調査日	平成29年10月2日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 7名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	5名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名	グループホームしおり
(ユニット名)	空
記入者(管理者)	
氏名	伊藤浩明
自己評価作成日	H29年 9月 11日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 災害対策・避難訓練について、年3回実施を継続して行いながら、より実践的な想定を考え実践的な方法で取り組みました。消防署からの評価でも、実践的であると評価をいただきました。 家族・関係者の方々には、毎月おたよりを送付し、行事等の呼びかけを継続して行っています。家族の方の声で『職員の顔と名前がわからない』といった意見があり、玄関に職員紹介を設置しました。玄関でそれをゆっくり見ているご家族やご利用者がおり、職員とのコミュニケーションの一つになってほしいと思っています。 ベッド柵の設置については、現在改善できていないのが現状ですが、モニタリングを通して現状と必要性の確認をしています。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 敷地が広く緑豊かな事業所は、高台にあり城などが一望できる。同法人の隣接の事業所とは自由に交流でき、近隣の保育園や小学校との交流も多く、利用者は明るく楽しみながら生き生きとした生活を送っている。利用者一人ひとりの生活スタイルや要望を取り入れながら、共に生きるケアを行っている。事業所内は明るい和やかな雰囲気に満ち溢れ、代表者の的確なアドバイスを得ながら、心根優しい管理者が職員の軸になり、利用者の意向に沿った支援に努めている。</p>
---------------------------	---	--

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	コミュニケーションや会話等、日ごろの関わりの中で希望や意向の把握に努めている。把握したことは申し送りや、ユニット会で共有している。	◎	/	○	日々の会話等を通じ利用者の希望などを聞くようにしている。会話が困難な利用者も思いや意向などを把握するよう努めている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	△	本人はどうかという視点を意識しながら、ユニット会やモニタリングで他の職員とも意見交換しながら支援を検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	家族、関係者の面会や訪問時に話し合っているが、毎回ではない。あいさつ程度の対応になってしまうこともある。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	アセスメントシート、24時間シート、日誌、申し送りなどを活用し共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	△	表情や発言から本人の思いを汲みとれるよう努めているが、深くかかわれない場面がある。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前に情報収集したことを職員間で共有している。入居後も、家族や関係者の面会や訪問時などに、情報を得ようコミュニケーションをとっている。	/	/	○	家族や関係者から生活歴などを聞くほか、利用者からは会話を通じ、こだわりや大切にしてきた情報などを得ている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	アセスメントシートによる情報収集や、ユニット会、モニタリング等で情報収集したことを共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	24時間シートに記録しながら、毎日の申し送りで共有している。ユニット会、モニタリングでユニット職員で集まり共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安や、不安定な状態に対して、ユニット会、モニタリングを通して、職員間で検討している。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24時間シートを活用し記録に残しながら、一人一人の過ごし方や生活の流れ等について把握している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人の視点で検討することを意識しながら、ユニット会、モニタリングで検討している。	/	/	○	本人の意向や思いを汲んで考えているが、利用者が本当に求めているものになっているかどうかを、さらに利用者の視点で検討するよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	24時間シートに記録しながら、毎日の申し送りで共有している。ユニット会、モニタリングでユニット職員で集まり共有している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ミーティング、モニタリング時に職員間で話し合い共有している。ご家族や関係者との話し合い等からも意見をもらい支援に活かしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	情報収集を行い、本人の状態などを把握しながら、モニタリングを通して職員間で共有と意見交換をしている。家族や関係者等からも面会の際などに意見交換している。	/	/	/	家族との話し合いは随時行い、利用者の必要な情報は得ることができており、意見などを介護計画に活かしている。今後は、ケアがさらに充実するようアセスメントをより一層充実させていきたいと考えている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	家族への手紙や、面会等の機会を利用して話し合いや意向確認の場を設けている。得た情報をもとにプラン作成に繋げている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	△	介護計画が運動していない状況もあるが、重度になった方でも体調や状態を把握し、屋外や居室外で過ごせる等、考慮し支援を行っている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族に通院や外出等を協力して頂いている。地域との協力体制は盛り込まれているケースがない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	毎日、介護計画の実施状況をチェックし評価している。ミーティングやモニタリングで介護計画について共有している。	/	/	◎	介護計画は内容がいつも把握できるよう見やすいところに置かれている。月1回のユニット会やモニタリングにおいて状況確認を行っている。面会や外出、レクリエーションの様子など結果のみ記録するのではなく、表情やしぐさなど利用者の様子も記録に残している。利用者一人ひとりに対する職員の気づきや工夫、アイデア等に物足りなさを感じるので、今後の取組みに期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	◎	毎日、介護計画の実施状況をチェックし評価している。ミーティングやモニタリングで介護計画について共有している。	/	/	◎	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	◎	24時間シートを利用し、利用者個々に記録を残している。	/	/	◎	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	モニタリングの際、利用者個々の状態や様子についての意見や気づきを記録している。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	モニタリングを実施しながら期間に応じて行っている。	/	/	◎	6か月に一度の見直しを行い、3か月ごとにモニタリングを行っている。変化が見られない時でも月1回は利用者の状況は確認している。本人が希望していること、どうありたいかなどを把握し、現状に活かせる取組みがあまり見られない傾向があるので今後に期待したい。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	◎	利用者全員を毎月モニタリングを行いながら、現状把握をしている。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	入院などがあつた場合、退院前にカンファレンスを開き、現状を確認し、それに即した計画に改めている。	/	/	△	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的、緊急案件等、その都度必要性に応じて臨機応変に会議を開催している。	/	/	○	緊急案件の場合は早急に対応し、随時解決している。文面では一言一句すべて記録することは困難ではあるが、重点事項は記録に留め回覧するほか、現場リーダーが口頭で伝えている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	座る位置や席順等、言いやすい環境作りに努めている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	年間計画を出し、会議の日程を周知している。緊急開催の場合などはリーダーを通して、日程調整を行っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	会議録を残し、不参加の職員に回覧できるようにしている。リーダーから口頭伝達もしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りの場で検討し、それを日誌に記入し情報伝達、共有できるように努めている。	/	/	◎	早朝と夕方とに申し送りを行い、利用者の体調や家族の要望などを伝え共有している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り、日誌を活用し、職員間で情報共有できるように努めている。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	日々の会話やコミュニケーションの中から、本人の要望等を引き出せるよう努力している。	/	/	/	利用者が様々な場面において自己決定できるよう職員全員で支援に努めている。自己決定の表現が困難な利用者もいるが、職員は利用者の喜びの表情を引き出すことを意識し声かけをするよう心がけている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	訪問販売でのおやつや買い物など、利用者に種類を選んで頂いたり、自己決定してもらえる機会を設けている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	△	利用者の昔の話や土地の話など、馴染み思い入れのある話題を持ち掛け、思いや希望を伺っている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	利用者個々に応じて、一人一人のペースや習慣等を考えながら支援している。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者個々に応じて、好きなことや興味のあること等を話題に持ち掛け環境設定をしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	利用者の状態を把握しながら生活を振り返り、取り組めることを考えながら、本人の意向に添えるよう支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修に参加し学んでいる。学んだことは研修報告、伝達を通し、職員間で共有し意識している。	◎	◎	○	接遇面の研修に自発的に参加してもらい、スキル向上に努めている。「トイレ」と大きな声で言わないようにしたり、難聴の人にはジェスチャーで表現したり、耳打ちするなど配慮している。居室の戸が開いている折も、ノックをし声かけし、目を合わせて入室している。トイレのある居室ではより注意し入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	声かけの仕方や大きさ、ジェスチャーなどを交えて利用者個々に応じた方法を取りながら支援している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	◎	異性介助が苦手な方には同性介助で対応している。排泄中はカーテン等仕切りをし、職員も離れたところからさりげなく見守っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	入室の前はノックや声かけをしてから入室をするよう気を付けている。	/	/	◎	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	プライバシーについて理解し、個人情報の取り扱いには気を付けている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	家事等に協力して頂いたり、時にそのやり方等をおしえてもらうこともよくある。声かけや感謝などコミュニケーションを図りながら支援している。	/	/	/	利用者同士の相性等を考慮し席配置を決めるなど配慮している。利用者同士の言葉の行き違い等によりトラブルにならないよう、職員が常に事業所内での様子を見守るなど、利用者同士の関係性を尊重した支援に努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者同士のやりとりや等、職員がすぐに介入するのではなく状況を見ながら見守っている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性を把握し、席の配置などを考えている。レクリエーション時の役割を持つことにより、利用者同士の関係が深められるよう支援している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	利用者同士の関係性を把握し、席の配置などを配慮している。利用者それぞれに不安や支障を生じさせないようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	◎	アセスメントや情報収集したものを職員間で共有している。何か変化等があった場合は、申し送りや日誌を活用し伝達・共有している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	アセスメントや情報収集したものを職員間で共有している。本人や家族からも話を聞くことにより把握できるように努めている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	家族に協力してもらいながら、馴染みの場所や人との関係性が途切れないように支援している。職員と共にでかけることもある。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	面会時など、居室やホールでゆっくり過ごしていただけるよう、環境整備や飲み物の提供などを行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	利用者個々に応じて、体調や気分、天候等を考慮し、散歩に出たり、外の空気を感ぜられるような機会を設けている。	◎	○	△	重度の利用者も含め事業所内で過ごすことが多くなっているため、利用者一人ひとりの要望等に沿い、散歩等も含め外出の機会が増えることを期待したい。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	協力を得られていない。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	利用者個々に応じて、体調や気分、天候等を考慮し、散歩に出たり、外の空気を感ぜられるような機会を設けている。	/	/	△	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族や地域の人との協力は事例がないが、季節や地域の楽しみ等を取り入れた外出を実施している。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	研修や勉強会で理解に努めている。ミーティングやモニタリングで職員間で話し合い検討しながら支援している。	/	/	/	食事の支度や下膳など、利用者にはできることを自分で行うよう場面を作り、時には職員と一緒に手伝うなど支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	利用者個々に応じて、生活の中でリハビリも兼ねた運動ができるよう働きかけている。毎日リハビリ体操を実施している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者個々に応じて見守りや声かけを行いながら、過剰な介助にならないよう配慮している。	◎	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者の日々の生活を見守りながら、役割や出番等把握している。	/	/	/	利用者との会話を通して楽しみなどを把握し、利用者一人ひとりに合った役割等を考え、それぞれみんなに出番があるよう職員全員で支援に努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	日常生活の中での家事やレクリエーション等を通して、利用者一人一人が楽しみや役割、出番があるように支援している。	◎	◎	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の行事等に参加している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	◎	利用者一人一人のこだわりや好みについて把握している。	/	/	/	髪型など整容の乱れや食べこぼしなどは、回りにわからないようさりげなく支援している。重度の利用者は常に横になっている状態なので、本人らしさが保てるような服装等にするなどの配慮が望まれる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	利用者一人一人、着慣れた衣服や好みの物を持って来て頂いたり、家族に本人好みのものを伝え買い足してもらっている。散髪時本人の希望を聞きヘアスタイルを決めている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	利用者個々に応じて、着る物等選択できるような働きかけをしている。必要に応じて着る物等相談している。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	生活の中で場面場面に依りて、本人と相談しながら服装を決めている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	周囲の方との関係性や配慮を含めてさりげなく対応している。あからさまな対応はしないよう心がけている。	◎	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	馴染みや希望の店のある利用者は、それを継続できるよう支援している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	×	服装においてはベッドで過ごされることがほとんどのため、寝間着で過ごしている。	/	/	△	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	△	食事をすることの楽しみについて理解している。広範囲では理解が不足している。	/	/	/	施設長が栄養士であり、適切なアドバイスに利用者の嗜好を重ね献立を作成している。毎週魚屋が来訪し利用者と一緒に選んだり、調理方法なども一緒に考えるなど、わきあいあいとした関係が築けている。祭りにはちらし寿司や郷土料理など行事食にふさわしいメニューを取り入れている。入居時に使い慣れた食器を持参してもらい、安心して食事ができるよう配慮している。調理中は献立の話をするなど、食事が楽しみに思えるよう配慮している。職員は利用者の傍に座り観察しながら見守り一緒に食事をしており、楽しく明るい雰囲気ですら食事ができるよう努めている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者個々に応じて、調理や片づけ等を行っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	利用者と共にいる中でコミュニケーションや会話を通して、たのしいやりとりや、やりがいを感じられるような支援をしている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者個々に応じて、把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	旬の食材や、地域ならではのメニュー、季節に応じたもの、行事ごとのメニューなどを取り入れながら、利用者の好みにも対応している。	/	/	◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者個々の、身体機能や健康状態を考慮しつつ、盛り付け等の工夫で利用者に食事を楽しくして頂けるよう支援している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	使い慣れた物を持って来てもらっている。使いやすい物を選択して使用してもらっている。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	職員は利用者と同じテーブルにつき食事をとっている。見守りや声かけ等を行いながら、利用者の食事の状況を確認している。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	△	声かけやコミュニケーションを通して、献立の説明や内容を伝えている。食べれる形態のものが統一されている。	◎	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が立てた献立を活用し、食事量のチェックを行いながら栄養が確保できるように努めている。	/	/	/	
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	利用者個々に応じて、飲み込みやすさ食べやすさを考慮し、食事形態やメニュー、回数を工夫している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士が立てた献立を活用している。その献立の中から利用者個々に応じて、ミーティング等で話し合いながら必要であれば形態や種類など検討している。	/	/	○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	食材の期限や鮮度等随時確認している。調理用具、キッチンの整理整頓や消毒を行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	研修や個々の経験を通して必要性を理解している。	/	/	/	訪問歯科の往診等により利用者の口腔ケアを行っており、口腔状態は常に清潔を保つように努めている。利用者は職員が見守る中、毎食後歯磨きを行っており、職員は磨き残しがないかなど、利用者の口腔内の状態は常にチェックしている。夜間に入れ歯は洗浄液に浸すなど、衛生管理も行っている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時の見守りや介助の際、訪問歯科からの診察状況等を通して確認し、記録に残し職員間で共有している。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の診察で、口腔ケアの指導や衛生用具の扱いなどの説明があり、それを支援に活かしている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	利用者個々に応じて、管理の必要な方にサポートしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者それぞれにできるところは本人にして頂いたり、難しい方には介助を通して、口腔内の状態の把握に努めている。	/	/	◎	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内や義歯に問題が生じた場合、歯科医の受診を受けられるよう支援をしている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	研修会の参加やミーティング等で話し合いながら検討している。排泄に関する理解ができるよう努めている。	/	/	/	食前にはトイレ誘導するよう心がけるほか、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を基本に支援に努めている。日中と夜間でおむつの種類を変えたり夜間のみポータブルトイレにするなど、利用者一人ひとりの状態に合わせたケアに取り組んでいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘がさまざまな身体・精神状況につながることを理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	チェック表を活用し、パターン・間隔を把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	利用者個々に応じて、トイレ、ポータブルトイレ、おむつの使用など、必要に応じてその状況に対する支援を検討している。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	利用者が排泄しやすい環境設定(プライバシーや表示)を整え、さりげない声掛けでトイレに行きやすくするよう支援している。状態の変化があった場合は随時検討している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	利用者個々に応じて、行動やしぐさ、排泄間隔等を見守りながら、排泄がうまくいくよう支援している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	可能な限り本人や家族と相談しながら、使いやすい物や使用頻度、使用方法等について検討している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	利用者個々に応じて、その時々状態を考慮したうえで、随時使い分けている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	薬の内服と並行しながらも、飲食物の工夫や運動を行いながら利用者個々に応じて自然排便を促す取り組みを行っている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	△	利用者本人の体調や入浴頻度等を考慮し、入浴支援を行っているが時に業務の都合に合わせた形になってしまうことがある。	◎	/	△	希望があれば毎日入浴できる。入浴の時間は利用者の体調や気分で決めるなど、利用者に合わせて支援に努めている。湯温は利用者の要望に応じられるよう配慮しているが、入浴を職員の業務の都合に合わせて待つ場合もあるため、今後は利用者の要望を優先するよう希望している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	利用者一人一人が入浴できるようにしている。一人一人の時間や異性介助など、会話をしながら支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できるだけ本人の力を活かせるよう支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	入浴日の変更や、対応する職員の変更など臨機応変に対応している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	毎朝バイタルチェックを行いながら、利用者本人の体調チェックを事前に行って入浴を勧めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	申し送りや記録に残しながら職員間で共有し把握している。	/	/	/	昼間は調理等できることを手伝ってもらったり、利用者一人ひとり活動量を調整するなど支援している。薬の服用は常に医師と相談するなど指示を仰ぎ、内容や量を検討しているが、極力薬に頼らず日中活動するなど工夫した支援に取り組んでいる。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動を増やしたり、就寝までの過ごし方も利用者それぞれに応じてリズムに合わせて支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者個々に応じて、日中の様子や活動等を検討し、医師に相談しながら内服薬の調整と指示を受け、総合的な支援に活かしている。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	利用者個々に応じて、日々の生活パターンや体力等を考慮し、休息や昼寝等臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	△	利用者本人からの申し出等があれば、その都度対応できるようにしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	×	本人の意欲を促すまでの支援はできていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	携帯電話を持たれている方へ、うまく使用できるよう備えている。電話がうまく聞こえない方もおられるので、職員が聞き取り役になることもある。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙やハガキ、郵便物などがある場合、本人にお渡ししている。ご家族にも報告している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	利用者個々に応じて、家族等に対しての電話の要望がある方では、家族等に理解協力してもらえるよう働きかけている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	利用者個々に応じて、お金を持っていることでの安心感や納得感を理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	本人の希望や要望を伺い、個別に対応している。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	利用者個別に、個人的な買い物や贈り物などができるよう、お店側に協力してもらっている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	お金の所持に関しては家族と相談しながら、利用者本人の希望に合わせて納得できる形で対応している。自らお金を使ったり、家族や職員が買い物を代行することもある。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	お金の所持や使っている方に対しては、家族と報告や相談をしながら支援を進めている。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	毎月、現金出納帳に記載し、管理及び使用状況を報告している。家族の同意を得て、預り金が少なくなった場合はその都度入金して頂いている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	△	地域の保育園との交流の中で、保育園児と利用者と一緒に楽しめる行事等の企画と実施に取り組んでいる。(芋ほり、駄菓子屋など)	◎	/	○	利用者や家族の要望等を聞き、そのニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	門戸は開放し、花や植物を植えたり環境設定を行っている。	◎	◎	◎	玄関を一步入ると広いホールがあり、面会者とゆっくり会話できる。職員紹介のパネルがあり、家族からはわかりやすいと評判で喜ばれている。面会者が気持ちよく感じるぐらい清掃が行き届くなど、環境整備にも力を入れている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	△	季節感を持てる掲示物を、リビングに掲示している。共用空間にある設備や環境は、家庭的で利用者にも馴染みのある物で設えている。	◎	◎	○	居間には習字の作品を飾ったり、コスモスの花を壁面に飾り季節を表現するなど工夫している。トイレは毎日欠かさず隅々まで丁寧に清掃している。リビングからはふるさとの島や城が一望できるなど、眺めが最高で利用者はいつも癒されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	季節や気候に応じて、利用者に影響することがないか配慮し、環境設定を行っている。掃除もやっている。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	△	季節の花や作物などを利用者の手の届くところに配置し、世話を通して成長や季節を感じてもらえるようにしている。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	リビングでの席の配慮をしている。廊下にソファを置き、一人でも過ごせる場所を確保している。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	◎	個室になっており、トイレには間仕切りカーテンを設置している。職員も介助の際は扉の開け閉めに注意している。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人・家族と相談しながら、入居時に本人が使い慣れた家具等を持ちこんでもらっている。	◎	/	○	馴染みの家具など使い慣れたものを持ち込み、家族と相談し好きな場所に配置するなど配慮されている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	浴室やトイレに表示があり、廊下全体に手すりを設置して安全に日常生活が送れるようにしている。	/	/	◎	転倒を防ぐために足元に物品を置かないようにしたり、手すりを設け、伝いながら歩けるよう配慮している。トイレや浴室の場所がわかりやすいよう表示するなど工夫している。	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々の生活パターンや生活状況を見極め、生活の中で誤解や混乱させてしまうような物品は検討し、その都度対応している。	/	/	/		
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	△	新聞や本など、利用者の好みや要望に応じて読めるように備えている。	/	/	/		
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	行動を制限することにより、利用者が不自由を感じ意欲をなくしてしまうというマイナス面を理解している。	◎	◎	◎	家族が階段の柵を希望されることもあるが、鍵をかけることにより利用者の自由が奪われることなどの弊害を理解してもらっており、日中は玄関の鍵をかけず自由に入出入りできるようになっている。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	利用者の生活とリスクについて両面から考えられるように、家族とよく話をしている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	日中は玄関には施錠はしていない。エレベーターは自由に利用できるようになっている。階段は安全対策のためワンタッチの鍵を使用している。利用者の日常生活を把握し、見守りしながら支援している。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシート、アセスメントシート等を活用し、病歴や現病、留意事項について把握している。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	日常生活の関わりの中で、利用者一人一人の状態を把握し、記録に残しながら、変化や異常の発見に努めている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	利用者の容体の変化があれば、随時看護職に相談し、必要があればかかりつけ医に相談し受診等につなげている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	受診の必要性がある場合、事前や途中でも本人・家族と相談しながら希望に応じた受診ができるよう支援している。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	受診の必要性がある場合、事前や途中でも本人・家族と相談しながら希望に応じた受診ができるよう支援している。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	利用者個々に応じて、通院方法や家族の同行の有無、状況に合わせた方法や内容を家族とも相談しながら行っている。	/	/	/	
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際は、利用者個々の状態等について情報提供している。	/	/	/	
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	随時、入院状況や経過等、情報交換や相談を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	関係づくりとまではいかないが、定期受診や診察の際に情報提供を行っている。	/	/	/	
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	利用者に容体の変化があれば、随時看護職に報告し、必要があればかかりつけ医等に相談し協力・指示を仰いでいる。	/	/	/	
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	看護職の配置があり、いつでも気軽に相談できる。協力医療機関に対しても随時相談している。	/	/	/	
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	利用者の日頃の健康状態や変化に気を付け、必要に応じて受診や治療ができるように体制を整えている。	/	/	/	
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	利用者個々に応じて、処方箋や内服薬の確認を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	服薬管理は職員が行っており、毎日チェックと準備を行っている。	/	/	/	
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	利用者個々に応じて、日々の状態や変化等と照らし合わせて内服薬の検討を行っている。	/	/	/	
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	◎	24時間シート等に記録を残しつつ、利用者個々に応じて容体の変化等があれば看護職に相談し、必要に応じて家族、医師に相談している。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	重度化や状態の変化に応じて、随時ご家族本人と相談し意向を伺いながら方針を共有している。	/	/	/	看取りについて、家族の不安に応じられるよう相談しやすい体制を整えている。今後どのような経過をたどるのか医師から家族に丁寧に説明している。看取り後の職員の心のケアにも努めており、職員の心が折れることのないよう配慮している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	モニタリングやミーティング、申し送りを活用し、職員間でも共有しながら、かかりつけ医や協力医療機関等へも報告している。	◎	/	◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々の方針の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	△	ホームでできることと、できないところを確認し、ミーティング等職員間で話し合いをしながら進めている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時と途中でも必要に応じて随時説明をし理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	◎	かかりつけ医の協力体制があり、重度化や終末期に向けて随時連絡をとれ、相談や指示を仰げる体制となっている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	家族等の心情を理解し、話し合いを行いながら支援を行っている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	研修に参加し学んでいる。ミーティングで議題に取り上げることもある。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症に対するマニュアルを設置しているが、具体的な訓練の実施までは至っていない。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	△	保健所や行政からの情報提供がありチェックを行っている。随時職員間で情報共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	△	保健所や行政からの情報提供がありチェックを行っている。家族や地域の方の面会や訪問時等にも情報収集している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は日頃から手洗いうがいの習慣ができている。利用者、来訪者にも手洗いや手指消毒を勧めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	ご家族の面会や来訪時には、利用者本人の近況をお伝えしながら、コミュニケーションを図るよう意識している。	/	/	/	敬老会や感謝祭、年4回開催の「笑みちゃんカフェ」などの際は、家族に協力してもらっており事業所は助かっている。毎月1回請求書と一緒に利用者の体調や様子を知らせるための手紙や、写真入りの活動報告を掲載した「しおり便り」を送付している。時には電話で利用者の近況報告をすることも。家族には面会時に声をかけるなど、コミュニケーションをとるよう心がけているが、事業所の運営上のことや職員の異動等について、家族に十分に報告できていないので、今後は運営推進会議等を利用し家族に報告できることを期待したい。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	居室やリビングにて気兼ねなく過ごしていただけるよう、声かけや飲み物を提供し、居心地の良い雰囲気作りに努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	△	笑みちゃんカフェのスタッフ側、外出や外食等、ご利用者個々に応じてご家族が参加していただいている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月ご家族へのお手紙を発行し、ご利用者の生活の様子をお伝えする機会を作っている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	△	ご家族の面会の際などに要望を聞き取れるようコミュニケーションを図っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	△	入居時の情報提供や、随時ご家族や本人からも話を聞き、両者の関係に理解している。職員は、利用者本人の近況報告やお話を通して、より良い関係が気付いていけるよう働きかけている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	△	行事や運営上の事柄についても、お手紙を通してお知らせしたり、面会や訪問時に随時お話をしている。	○	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	×	家族同士の交流を図るような機会はあまりない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	△	必要に応じてホームでの取り組みや対策について説明し話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	話しやすい関係が持てるように、雰囲気作りや声かけなどを意識している。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	契約時には、理解、納得を得られるよう具体的に説明と話し合いを行っている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	退去に至る際は、本人・家族とよく話し合いながら今後の方向性等も含めて検討し、理解を得られるようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約や料金改定など、変更事項がある際は事前に文書や口頭にて説明を行い、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	事業所の設立時、地域の方々へ事前の説明会等の機会を通して理解を得ている。	/	○	/	地域の行事予定は運営推進会等で自治会長が直接伝えてくれており、行事には利用者が積極的に参加している。また自治会の清掃や小学校の運動会等に利用者と職員が出席するなど、地域とのかかわりは日々深まっている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域の行事には積極的に参加し、地域との関係性が深められるように取り組んでいる。	/	◎	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	地域の民生委員の方で、見守りや支援の申し出があった。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	行事の際には地域の方が来所されることもある。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	近隣住民や地域の方への挨拶は心がけている。日常的なおつきあいはない。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	行事などを通して、ご利用者の楽しみやレクリエーションの充実を図って下さっている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	ご利用者個々に応じて、大切な役割となっている地域資源を把握している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の商店等に、しおり便りを掲載して頂き情報発信をさせて頂いている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	家族や地域の人等の参加はあるが、利用者が参加する機会がない。	◎	/	△	運営推進会議には家族や地域住民等は参加しているが、利用者が参加する機会がないので、今後は利用者が参加しやすいような内容にするなどの工夫に期待したい。評価内容等については、運営推進会議で報告・説明し家族の理解を得ている。議事録から要望や助言などが積極的に出ているのが分かるが、事業所の運営に活かせていないので、今後に期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	◎	運営推進会議を通して、報告している。	/	/	◎	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけでなく、参加者等に意見をいただけるよう働きかけている。その結果についても随時報告している。	/	○	△	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	より参加できる方が増えるように声掛けは行っている。事前に日程をお知らせしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	要望があればお答えできるように備えている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	△	事業所理念は職員が見える所に掲示し、共通認識が持てるよう目標を立てて日常の支援にあっている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念について機会ごとに話すことはあるが、わかりやすく伝えているかという点は不十分である。	◎	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員個々に応じて、研修参加の呼びかけや案内をしている。				管理者は全職員に出勤時・終了時には話したいことが話せる機会を作っている。リフレッシュ休暇は誕生日にとっている。有給をつなげてとる人もいる。勤務を調整しながら実務者研修の受講者には、費用の負担もしている。勤務体制が負担にならないよう要望もよく聞いてもらえる働きやすい職場である。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	△	新任職員に対する研修を企画し、職員の要望を聞きながら進めている。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	資格習得の助成など、職員がスキルアップに積極的になれる処遇を設定している。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	相互研修やその他研修にも積極的に参加している。職員の意識向上に努めている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	代表者は、随時職員と話ができるよう現場に出ている。		○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修に参加し学んでいる。モニタリングやミーティング時にも不適切なケアについて随時検討している。				新人研修の中に盛り込み力を入れている。研修参加者はミーティングの時全職員に報告し記録にも残し共有している。虐待とはどういうことか、ミーティングで説明を受け話し合いも重ねている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	◎	申し送り、ミーティングの機会を活用し、日々のケアについて検討している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	◎	申し送りやミーティングを通して、ケアが不適切ではないか検討し、必要に応じて改善策や対応方法を話し合っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	代表者、管理者は現場に出向き職員と話しながら現状把握をしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	利用者個々に応じてやむを得ず対策をとる場合があり、その都度具体的に話し合い理解するように努めている。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	ミーティング、モニタリングの場で話し合う機会がある。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	ご家族からのさまざまな要望があった際にも、事業所としての方針や、ケアの内容、本人の状態等を含めて話し合い理解を得られるようにしている。				

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	研修に参加し学んでいる。研修報告について情報共有している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	機会や必要性等を踏まえ、随時相談している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	必要性が生じそうな場合は、地域包括など助言や協力をいただけるよう連絡体制は備えている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底ができていない。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	避難訓練や講習を通して、全職員が知識や実践力が身につくよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	△	想定されるリスクや事故発生時には、ミーティングや申し送りで検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	想定されるリスクや事故発生時には、ミーティングや申し送りで検討し再発防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルは作成している。随時、利用者・ご家族とのやりとりを振り返りながら必要に応じて検討している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	△	苦情や意見に対しては、速やかに対応できるよう備えている。必要と思われる場合は行政との連携や相談も視野に入れている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	△	苦情や意見に対しては、早急に対応し、話し合いや報告を行いながら理解・納得を得られるよう取り組んでいる。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	日頃のコミュニケーションを通して、利用者の意見や思いを汲み取れるように努めている。	/	/	○	利用者の願いや希望を日々の生活の中でくみ取り、職員間で共有している。ご家族からの意見は面会時や行事参加時によく聞き取っている。遠慮がちなご家族への今後の対応が課題である。管理者は大切な一つひとつの意見や提案に対し、緊急性のない内容はじっくり職員間で考え返している。苦情相談窓口も内外部に設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	△	日常の面会や訪問時に、家族から意見や相談を受けられるような雰囲気作りに努めている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	契約時の説明と、ホーム内の掲示を行っている。普段から苦情とまでいなくても、気軽に何でも意見を言って頂けるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	代表者は随時現場に足を運び、職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を聞くようにしている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	日々の申し送りやミーティングの際に職員の意見を聞けるような体制作りを備えている。	/	/	○	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	サービス評価について、全職員が自己評価から行っている。	/	/	/	運営推進会議で外部評価・目標達成計画について報告している。モニターにまでは至っていない。今後、サービス評価が地域・ご家族とともにより深く一緒に取り組み評価していただけることが望まれる。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価結果をもとに課題設定を行い、サービス向上のために取り組んでいる。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価結果をもとに課題設定を行い、サービス向上のために取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果と目標達成計画書について報告している。	○	△	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	取組の成果や経過報告が十分にできていない。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルは作成しているが周知徹底は不十分である。	/	/	/	原子力災害において伊方より30km以内の施設を受け入れる体制ができている。「かきの里」「丸の内はとぼっぼ」との連携はある。内容によっては受け入れの備えはある。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	さまざまな時間や災害を想定した、より実践的な訓練を実施している。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	防災委員の設置があり、定期的に点検している。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	△	年1回は消防署立ち合いのもと訓練を実施し、助言指導をいただいている。地域や近隣事業所の人との連携は不十分である。原子力災害に関しては、避難受入れの協力体制がある。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	地域の避難訓練に参加している。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	しおり便りを通して、地域などに情報発信している。	/	/	/	随時介護相談を受け入れている。事業所が相談できる場であることを今後回覧板・ポスターなどを利用し、広めていく方向である。丸穂保育園児による歌や踊りのミュージックケアが催され、利用者は喜びや生きがいを感じている。天神小学生の人権の授業の一環として、サルビアの苗を育て届けてくれる。公民館より物品を借りることもある。福祉施設を訪問しているカラオケボランティア〈絆〉やフラダンスが敬老会で披露される。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	来所者に対する相談体制を備えている。	/	×	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	事業所の行事や、地域サロン等で事業所を活用して頂く機会がある。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望や必要性がある場合は臨機応変に対応し受け入れ態勢を備えている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域の勉強会やイベントには積極的に参加し、関係構築につながるよう努めている。	/	/	○	